

第15回全国棚田(千枚田)サミット が新潟県十日町市で開催されます！

1. 棚田サミット開催の趣旨

今、就農者の高齢化や耕作放棄地の増加などで、多面的価値の大きい棚田の存在が危ぶまれる状況となっています。

そのため、全国の棚田を有する自治体、棚田保全に取り組む団体などが一堂に会し、農業生産の場としての水田に留まらず、環境保全や文化・遺産としての棚田の意義や必要性をお互いに理解し連携して全国に大きく発信します。

そして、平地(や都市部)の住民など多くの国民の理解と合意を得て、棚田の更なる維持、活性化を図らんとします。

2. 開催期日

平成 21 年 10 月 16 日(金)・17 日(土)の 2 日間

3. サミットの内容

- ◆ 10 月 16 日(1 日目)
 - 12:30 開会式・基調講演 松代総合体育館
 - 14:00 棚田見学会
星峠の棚田・蒲生・儀明の棚田・新田の棚田・留守原の棚田
 - 18:00 全体交流会 松代総合体育館
- ◆ 10 月 17 日(2 日目)
 - 9:00 分科会 地場産業振興センターほか
 - 第 1 分科会「地域の自然と棚田の関わり」
 - 第 2 分科会「みんなで支える棚田の農業」
 - 第 3 分科会「棚田と地域振興の取り組み」
 - 第 4 分科会「スローライフと棚田のつながり」
 - 第 5 分科会「棚田と震災復興の取り組み」
 - 12:30 事例発表・分科会のまとめ・閉会式

【お問い合わせ】

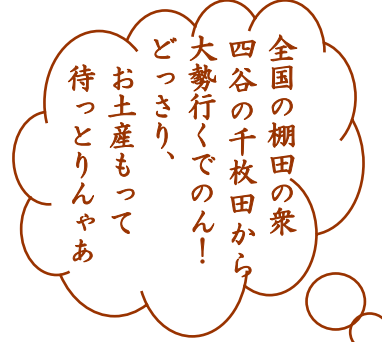
全国棚田(千枚田)サミット実行委員会
十日町市役所 松代支所農林建設課 Tel.025-597-2222

四谷の

千枚田だより



第 72 号



あいち森と緑づくり事業

愛知県の森や緑は今、荒廃、減少の危機にある。愛知県では、様々な働きで私たちの暮らしをささえてくれている森や緑を健全な状態で将来に引き継いでいこうと、平成二十一年四月より「あいち森と緑づくり税」を導入し、森林や里山林、都市の緑を整備・保全するなど、様々な取り組みを進めております。

保存会では「あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業」のうち里地・里山生態系保全活動を取り組みとして○里地里山に配慮した千枚田周辺の環境整備(周辺の草刈り、県道、市道、私有地の障害木の除伐)などの実施。○里地里山生態系をテーマにした自然観察会等の開催。などを事業内容として応募した結果、県環境部により選定、六月二十六日付けで採択されました。

この事業を活用して保存会、連谷お助け隊をはじめ、地域の皆さんと力を合わせ、風通しの善い連谷を築いて活きたいと思えます。

それにつけても、何かにつけても四谷の千枚田の存在感、偉大さに感謝の至りです。

念仏踊り

八月十四日、室町時代から継承されてきたとされる念仏踊りが身平橋の海源寺で行われた。

この、念仏踊りは災厄退散や亡魂鎮送のため行われる盆行事で、正月と並んで日本民族の一大祖霊祭ともいべき伝統行事です。



この念仏踊りは昭和三十年頃までは多くの集落で行われていたが、現在では身平橋組の「西組共進連」と方瀬、真菰組の「方真連」の中老衆(念仏)、若い衆(はねこみ)で組織する二組のみが継承されている。

案山子

○八月二十一日、豊橋調理製菓専門学校の実習田では稲の生育調査、自

然観察、案山子作りが行われる。

千枚田に学ぶ (連谷小学校)

学校田の作業日程

○八月二十一日、田の草取り

○九月二日、案山子立て

○九月三十日、稲刈り

稲刈り

○九月十日、豊橋調理製菓専門学校

○九月十二日 三河の山里ツーリズム

地区盆踊り

八月八日、連谷分館、コミュニティ

イは恒例の盆踊りを行った。

長梅雨で、今日が初めての好天に

音頭だし(地唱)も踊り手も軽やかな

所作で踊りを楽しんだ。

会場では花火、金魚すくい、パー

ベキユウなどが人気を呼んだ。



小畑で見つけよう感動体験

新城市小畑地区は、田舎暮らし・農作業・地域の食材や自然伝統文化を楽しもうと「小畑の農業を楽しむ会」を設立。

内容：体験料(1組) 30,000円/1年間

※1組100㎡が自分たちの体験田んぼ

- ・稲作体験(お米30kg付き)
- ・柿の栽培管理の体験(10kg付き)
- ・蛍・彼岸花の観賞(案内付き)
- ・自然体験(山、川)

感動体験の一つとして8月9日、水田管理(草刈り等)、自然観察会を実施。(参加者55名)自然観察会は鳳来寺山自然科学博物館友の会小椋会長と県ふるさと指導員小山舜二により「望みの池」を源流の生き物観察会を実施。小川にはカワムツ、カワヨシノボリ、ドジョウやトンボのヤゴ、蛍の餌になるカワニナなど、小畑の自然の豊かさに感動を見つけた。午後は四谷の千枚田も訪れ、里地・里山を満喫した。



賞をねらって

農林水産省は平成二十一年度田園自然再生活動コンクルの募集を実施した。(〆切七月三十一日)

募集趣旨：農村地域では、農業の営みを通じて、田んぼや水路、ため池などにさまざまな生きものが育まれ、豊かな自然を形成されてきた。こうした生きものにぎわう「ふるさと」の自然を保全、再生し、自然と共生する魅力ある農村づくりを進めることが重要となっている。

こうした中で、農水省では環境省等と連携し、平成十五年度から農村地域の自然環境の保全・再生をめざして農業者、地域住民、団体などが協力して行っている「田園自然再生活動」の取り組みから、優良事例を

表彰している。

募集資格は農業生産との調和を図りながら、生態系の保全等、自然環境の保全・再生活動に取り組むグループとなっている。

「四谷の千枚田」はビオトープを中心にタニシ、ドジョウやモリアオガエル、ヤマアカガエルなどの再生に取り組み、成果をあげている。

鞍掛山の恵まれた湧き水と天日干しの美味しい米作りに、生きものと共生できる(減農薬)活動を行っていることから農林水産大臣賞を視野に応募しました。

行 平成二十一年八月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山舜二